

---

# 黒の夜

ロツツカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒の夜

### 【Nコード】

N5985S

### 【作者名】

ロツツカ

### 【あらすじ】

此処にいないから待つのだ。もう戻って来ないと知っていようが、いなかろうが。男は、そこで待ち続けるのだ。ただ待つだけの話。

気がつくとも男は、玄関の扉の前で寝てしまっていた。彼は靴を履く時のように足だけを地面に放り出し、上半身は完全に壁に預けている。二度三度と瞬きをするが、彼の目は暗い色をしたままである。まだ覚めきっていない頭で考えるものの、何故此处で寝てしまっていたのかさっぱり彼には分からない。酔っ払った拍子にでも、と思ったのだが、彼は昨日は酒を口にしていないはずだった。

首と肩の痛みに顔をしかめ、男は身体を起こす。手ぐしで髪をとく、というよりは頭を搔くような動作をしてから、彼は玄関へと向き直った。

夢を見たような気がする、と彼は思いだす。だが夢を見たとはいえ、その内容まではぼんやりとしか思い出せない。ただ、彼が覚えているのは二つだけ。第三者のような視点で自分を見ていたという事、そして見た事のある玄関に自分——若い頃だったのかもしれない、今の自分だったのかもしれない——が、座っていたという事だ。その夢の中では自分が何をしていたのか覚えていないが、その光景自体には彼には非常に心当たりがあった。

(……待っていた)

まだまだ眠気のとれない頭で、彼は考える。目をごしごしと擦り、気の抜けるような欠伸をした。

(……誰を?)

彼は、寝ぼけ眼で玄関の扉を見つめる。

思い当たる節はいくつもあった。ずっと昔から見ていない黒髪の女性や茶髪の男性だったか。いつもやかましい灰色の髪の男性だったか。透き通るような色の髪の女性だったか。それとも、白髪の少女だったか。——否、最後は無いだろう。彼のすぐ後ろの扉の向こうから、その少女の寝顔が覗いているからだ。物音を立てても反応する気配も無く、彼女は深い眠りの世界に入っている。彼の傍にい

るのは、今は彼女だけだった。

此処にいないから待つのだ。もう戻って来ないと知っていようが、いなかろうが。恐らく、彼に心当たりのある人物は、少女を除いた全員が戻って来ない部類だろう。少なくとも、一人は確実に。

「戻って来ない事」に対する決心をした筈だった。その人が帰って来ない事が自分のせいだという事を、男は知っていたのだ。だからこそ彼は、また一人に戻ったのはしょうがない事だと考える。

彼は後ろに倒れるように寝転がり、ゆっくりと瞼を下ろした。

静寂が埋め尽くす。廊下の向こう側の部屋から微かに時計の針が動く音が響いてきた。男は閉じた目を自分の腕で覆い隠したまま、ぴくりとも動かない。今の彼には、暗闇しか見えない。

「なーにこんな所で寝てんだ、風邪ひくぞ」

声が聞こえたような気がして、男は勢い良く起き上がった。だが、声の主はどこにもいない。外からは朝日が差し込み、もうすっかり明るくなっていた。

声の主の代わりに彼の目の前にいたのは、白髪の少女だった。彼女は男の膝の上に乗る、肩を揺すっていた手を止める。

「おきた！」

「……あー……」

深夜に起きてから、そのまま寝てしまった事を男は思いだす。おかげで首と背中の中の痛みが取れず、彼はしかめっ面をした。少女はそんな事もお構いなしに、足をぶんぶん振って笑顔を見せる。

「ねえねえ！　ねえねえねえ！！」

「……分かったから落ち着け」

溜息を吐き、男は少女を膝から下ろす。それでも尚、男の目の前から動かない彼女を彼は不思議そうに見た。

少女はえへへ、と満面の笑みを見せた。

「たんじょうびおめでとう！」

そう言つて彼女は男の髪をくしゃくしゃと撫で、勢いよく抱きついた。男は目を丸くしながら倒れ込む。少女は足をばたつかせ、先程の言葉を何度も何度も繰り返している。諦めたのだらう、男は軽く少女の頭を撫でた。

男の側には、少女がいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5985s/>

---

黒の夜

2011年10月8日14時55分発行